（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2391200033		
法人名	ゆたか福祉会		
事業所名	グループホーム宝南の家		
所在地	愛知県名古屋市南区元塩町３丁目１番地の１		
自己評価作成日	令和2年12月16日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200033-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目６番地の５　かえでビル　２階
訪問調査日	令和3年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な取り組みを自粛しました。国や県の緊急事態宣言に従いながら、なじみある生活習慣を維持できるよう、友だちや家族との毎日の散歩を継続できるような支援や、少人数で懐かしい場所に出かけたりしています。花見や日帰り行楽等を中止したため、施設内でできる梅干しをつけたり、おはぎを作ったりしながら、季節感を感じられるような取り組みをしています。医療に不安が無いように必要な場合は専門医にかかり健康的に生活できるよう支援しています。また利用者の持っている能力を発揮できる場を増やせるよう家事や趣味的活動など日常的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線通りに程近いマンションや住宅が立ち並ぶところに位置し、デイサービスや居宅介護事業所が併設されている。3階と4階に1ユニットのホームがある。「自立支援、人権尊重、地域とのつながり」を理念に掲げ、「その人の思いを大切にし、その人らしい生活を尊重し、楽しく生活ができる」ように職員は日々ケアの中で振り返りをしながケアに努めている。温かい地域やボランティア、家族の協力で様々な地域行事の参加や家族の親睦を図る家族会、年2回の日帰り旅行、季節の花見や外食など普段行けない所に皆で参加できるように配慮し、思いで作りや馴染みの継続支援に心がけているが、コロナ禍で踏み止まっている。本人や家族、担当者、管理者、計画作成担当者、必要に応じて医師や看護師の意見も添えて担当者会議を行い、ケアプランに反映させてケアの中で実践し、家族からの信頼感と安心感が寄せられている。毎食手作りの食事を提供し、入居者の希望を取り入れた献立を考え、旬となる食材を使った料理や行事食を楽しめるように心がけている。4階の広いベランダでバーベキューやお茶をしたり、プランターの花や野菜の水やりなどをして外気に触れる機会を大事にしている。皆が集うリビングでは、テレビや新聞をじっくり楽しんだり、気の合う仲間とカルタ取りをして和気あいあいと過ごしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員会議などを利用して理念の共有し、管理者と職員は理念を意識して業務遂行に努めている。また、改めて法人理念や事業所理念を振り返り意見交換を行うことで実践につなげている。	事業所理念の「自立支援・人権尊重・地域とのつながり」を基本に、ゆたかな笑顔と人間性を育み入居者の創意を生かせるよう願いを込めて、入居者の目標を作成し職員と一緒に毎朝唱和をしている。ケース会議や職員会議などで定期的に「理念に基づく支援」について話し合い、職員の行動指針を作成し、確認しながら日々のケアを振り返り、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で毎月行われる会合に参加している。今年度は、地域の行事は新型コロナウイルス感染予防のため、全て中止となり地域との付き合いの場が減ってしまう。	町内会に加入している。町内の防犯役員として毎月の会合に参加し、地域の一員として貢献している。新型コロナウイルスの影響で殆どの行事が中止となっているが毎年、町内の清掃や防災訓練、夏祭りには、入居者と一緒に参加して地域と交流する機会を大事にしている。併設のデイサービスでの認知症カフェや中学生の福祉体験など今年は、中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日第４日曜日に開催しているカフェでは、ホームが主催し地域の人が参加している。しかし、新型コロナウイルスの流行によりR2．2月よりお休みしている状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの出来事や事業計画を報告し、委員から意見を貰っている。支援のあり方や新型コロナウイルス感染予防について、地域の人が認知症の方に対する取り組みへの理解を得ながら意見交換している。	新型コロナウイルスの影響で2回は書面で開催し、徹底した感染対策の下、後の4回はデイサービスの広い部屋で開催している。家族代表、学区委員長、寿会会長、地域住民代表、民生委員、有識者、いきいき支援センター職員の参加を得ている。運営状況や活動内容、事故やヒヤリハットなどの報告、コロナウイルスの取り組みなどを議題とし、参加者と活発な意見交換が行われている。意見や提案等はその場で話し合い、サービスの向上に活かしている。会議録は、家族全員に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回実施している運営推進会議では、オブザーバーとしての参加を依頼として、事業運営の理解に努めている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で介護保険更新手続きや申請書類などは郵送している。市の担当者とは日頃から密に連絡を取ったり、FAXやネットなどを利用し情報を得るなど良好な協力関係を継続している。研修はズームなどを利用して施設内で受講し、職員の意識の向上やサービスの向上に繋げている。管理者は南区の認知症専門部会の委員として活動し、認知症の啓発や地域ネットワークを創るための取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会では、身体拘束を行わないケアについて検討している。今年度は、実際に職員が車いすで2時間座り続け、体験後の気持ちや身体の痛み等の意見交換をし学び、実践に活かせるよう取り組んでいる。	2か月に1回委員会を開催し、身体拘束や過剰介護、スピーチロックをしないケアを周知し理解を深めている。毎年テーマを決め不適切なケアについて話し合ったり、車いすの拘束体験をしたりして体験後の気持ちや痛みについて学び、実践に活かす取り組みをしている。居室への移動は、エレベーターや階段など安全に利用できるよう見守を重視して自由な移動や生活空間を提供し、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止として、勉強会を設ける。また、普段何気なくしてしまう声かけがスピーチロックに繋がってしまっていないか気づいた職員が声を掛け合える現場作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がみえる。これから、制度活用について管理者のみならず職員で学びを深める努力を目指す。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年あらたに2名の方が入居された。本人や家族には具体的な契約のための説明を行い同意を得ている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、家族と利用者と職員が気軽に話をできる場を設けている。また、頂いた意見を職員間で話し合い反映できるよう努めている。また、運営推進会議に家族に参加して頂き企画について意見が反映できるようにしている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時や家族会、ケアプランの説明時に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。グループホームだよりを毎月発行し、入居者の日ごろの様子や外食、行事の写真を掲載して家族に安心を届けている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う定例会議の場で職員の活発な意見を聞いたり、副所長が日常現場におり何気ない意見や提案を把握したりし、反映できている。	日常の業務の中や引継ぎ時、毎月の定例会議などで職員からの提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。法人が行う自己申告アンケート以外に事業所独自のアンケートを実施し、やりがいや健康状態、勤務の希望などの調査をして、ケアや業務改善に役立てている。管理者とは年2回の面談の他に、話しやすい環境にあるため、常に職員の提案や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告アンケートを行っており働きやすさややりがい等の申告をうけている。また、職員の生活環境も含めて理解し、お互いが協力し合う関係づくりを作れるよう働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修や、勉強会を行ったり、希望する職員には介護福祉士実務者研修を事業所負担で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3～4か月に1回在宅コングループホーム部会では、毎回テーマをもって、学習会を開催したり、情報交流の場となっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームで生活する上で、家族や利用者に希望や生活史を聞きとり、できるだけ自宅で行っていたことを続けられるようにしている。傾聴に心がけ、会話や表情などを観察し、大切にしなければいけないことに気づくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に生活していて困っていることや介助していることを聞き取り、ホームに入居後、対応の仕方の参考にしている。お互いが協力者という気持ちで相談することもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅では専門医の受診時に十分な説明を行うことができなかったが、早期に受診に職員が同行したことで、本人が希望する医療につなげることができた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや後片付け、掃除や洗濯等の家事を中心に、職員と共に日常の暮らしを送れるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食や散歩など、家族との定期的な外出へ出かけることで、家族との絆を大切にしている。また、本人の心の安心感を家族から支援して頂きながら、共に協力し合える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人との毎日の散歩や、生まれ育った土地へ外出し馴染みある店にて食事支援を行ったりしている。	入居者が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。今年度はコロナ禍で、規制されることも多いが、友人と散歩をしたり、生家を訪ねたり趣味の生け花を楽しんだり、家事などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かすなど、今できることに力を注いでいる。収束の折には今まで通り、喫茶店や美容院、お墓参り、年末年始に帰宅して家族と一緒に過ごすなどの支援ができるよう心積もりをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席は自由に座って頂き利用者同士が関わり合えるよう支援している。また、職員が間に入り利用者個々のできることに合わせた支援をし、協力し合える環境つくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年亡くなられた方の家族がボランティアとして、認知症カフェに協力してくださる。また、本人の強い希望で自宅に戻られた家族と連絡を取り、相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	近所に長年住んでおり、日課だった友人との散歩やマクドナルドでの会食を継続していただいている。仏壇へのお供えの花を買いに行くことが難しくなり、ベランダで栽培するようにした。	入居者一人ひとりの思いに寄り添い、入浴時や夜間帯などゆっくりとした時に思いや希望を聞くようにしている。日常のさりげない会話、表情など、ケアの中から感じ取ったことは、申し送りノートに記録してケース会議などで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、些細な変化を見逃すことなく身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、昔の好きだったことや、習慣としていたことを把握している。歌手になる夢や、友人との散歩、仏壇へのお供え等、一人ひとりの生活に寄り添える努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議を月に1～2回開催するとともに、日頃の申し送りにて、本人の持っている力に気づき、職員間で情報を共有し、現状の把握を行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や職員会議では計画作成者と一緒にモニタリングを行っている。担当者会議を行い利用者や家族、必要時に医療機関も交えて情報共有し利用者本人の思いに合わせてプラン作成を行っている。	入居者の意向や思いを個別記録や申し送りノートなどに記載し、記録を毎日確認して情報を共有しながら、計画作成者とともに3か月ごとにモニタリングを行い同時に介護計画の見直しもしている。担当者会議には、入居者や家族も参加し、医師や看護師など関係者の意見や意向等踏まえながら、問題や課題について話し合い情報交換をして現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に本人の状況及び思いを分かりやすく記入できるようにするとともに、業務日誌へ状況の変化等の申し送りを記載することで、職員間の情報共有に努め、介護計画へ反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防のため、併設のデイサービスとの交流を控えるとともに、地域の行事も中止になったため、施設内でベランダでお茶を飲んだり、花火やBBQ、少人数での外出等の取り組みに励んだ。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の友人と散歩に出かけ、馴染みのある知人に会うことや馴染みある場所に行くことが、本人の心身の支えになっている為、新型コロナウイルス感染予防に努めながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向をふまえ、認知症の専門医や整形外科、皮膚科等、往診では対応できない専門医療へつなぎ、適切な医療を受けられるよう努めている。	入居時にかかりつけ医か提携医か希望を聞いているが殆ど提携医に変更している。内科は月2回提携医による往診が受けられる。訪問マッサージや歯科医が定期的に訪問し、希望者は受診できる。専門科の受診は家族の協力を得ているが、緊急時などは職員で対応し、受診結果は専用ノートや個人記録に記載して情報を共有している。身体状況に変化があった時や緊急時は、訪問看護師と24時間連携を取り主治医や提携医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡体制が、訪問看護ステーションと連携することでき、利用者の体調について相談している。また、ホームドクターとの連携が取れているため、必要な医療介入ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを入院時には作成し、医療や生活の情報提供をし、必要に応じて病棟看護師と情報交換をしている。入院中の情報提供をもらったり、退院時カンファレンスに参加したりし、退院後に不安なく生活を送れるよう関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議にて本人や家族に、現状の希望を確認し、事業所の方針及びできること・できないことについて詳しく説明し、意見交換をしている。担当医との連携を含め、お互いが納得できるよう取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と事業所のできる事の限界も詳しく説明して家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し計画の見直しを行っている。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら入居者にとって最善の援助ができるように努め可能な限り希望に添うよう支援をしている。年2回の内部研修では、職員のメンタルケアや看取りについての勉強会を行い、事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防団に、応急処置や急変時の対応についての救急救命講習を受けている。また、急変時の理解をするための勉強会を実施し実践に役立てられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を地域の消防団の協力を得て開催している。避難経路の確認として出入り口への物がないかや、備蓄品の確認を日頃から行い、職員が意識しできるよう努めている。	年2回地元消防団の協力を得て火災や地震、洪水など様々な災害を想定した避難訓練を昼間や夜間の職員体制で実施している。併設の事業所と合同で避難誘導や避難経路の確認や初期消火訓練や起震車の体験など行っている。その時の指導や問題点などは職員で話し合い改善に努めている。リスクマネジメント会議を開催し災害や安全対策など話し合う機会を設けている。今後福祉避難所の登録を考えている。備蓄品は水や食料など職員の物資も含め3日分が用意されているが、食料以外の備品のリストが準備されていない。	備蓄品のリストを作成し数量や賞味期限、物品名や保管場所、点検日などを記載し、どの職員も確認しやすい場所に掲示するなど工夫をして緊急時に備えることが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重の理念の観点から、適切な声かけや対応とは何か職員会議等で情報交換をするとともに、他人が聞いて「あれ？」と感じる言葉かけをみかけたら、その場で意見交換をできる職員の関係性作りに努めている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、より良く過ごせるよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、「不適切な言葉かけや態度の違和感」を感じ取り、その場で注意し合える職員の関係性作りに取り組んでいる。また、スピーチロックに関する学習会を行い、知識や技術の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昔話や雑談等で交わす会話から、食べたいものや行きたい場所等を引き出し、本人の意向に寄り添った支援ができるよう努める。また疑問文での問いかけや、選択肢の提案で自己決定への働きかけを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	この時間に食事・入浴をしなければならないという職員の固定概念をなくせるよう、利用者のその日の体調や些細な変化に気づき、体調に合わせた食事提供を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはいつもと違う装いをしたり、化粧をしたりし、身だしなみやおしゃれの支度を支援している。また、定期的に理美容院へ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に一緒に立ち、食事作りや後片付けを職員と楽しく会話をしながら行っている。立位が難しい方へは座ったまま、野菜の皮むきや卵を割って頂いたり、その人の力に合わせた支援をしている。また、季節に合わせたお菓子作りも行っている。	業者から食材が届けられ、季節の食材を使って今まで慣れ親しんできた家庭料理を中心に毎食手作りしている。準備や後片付けはその人の得意分野を生かして職員と一緒に行っている。おせち料理や巻き寿司、母の日にはちらし寿司など食事を楽しむ工夫をしている。納涼祭にはベランダでBBQをしてノンアルコールのお酒も提供している。手作りおやつの芋きんとんやおはぎ、誕生日ケーキ、仕出し料理なども楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考えて作っている。咀嚼や嚥下状況に合わせた食事の形態に努めるとともに、食べられる量にて提供している。こまめに水分補給の声をかけ脱水や便秘にも気にかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後毎日歯磨きを行う習慣になっている。声かけで行える方や支援が必要な方それぞれに合わせた口腔ケアをしている。また、歯科往診にて口腔ケアや指導を受けている。義歯の方は、毎晩消毒をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助が必要とされている利用者が過半数を占めているが、職員が排泄パターンの把握に努め、早めの声かけにて排泄の失敗回数を減らし、気持ちよく暮らせる支援を行っている。	個々の介護記録や24時間シートを利用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は布パンツやリハビリパンツで過ごし、自力での排泄を目指している。夜間でも、睡眠を妨げることなく尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にして、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂取できるような声かけや支援をするとともに、食事の工夫を行っている。散歩やリハビリ体操などの運動の取り組みを行うことや、元々便秘症の方は医師に内服薬を出していただき調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時の時間や曜日は、一人ひとりの予定や都合にて変更することもある。無理強いはせず、本人の要望に寄りそって、入りたいタイミングで入浴して頂けるよう努めている。	入浴は週3回午前、午後どちらでも入浴でき、希望があれば毎日でも入浴できる環境を整えている。冬季は脱衣場の暖房機を利用してヒートショックに配慮している。お湯は、足し湯をしながらオバーフローさせ清潔を保っている。肌の弱い方には石鹸を用意したり、季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤などを利用し入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠リズムの把握に努め、昼夜逆転にならないよう、日中活動を活発に行い夜間の安眠支援をしている。体調や疲れ等に合わせ、必要に応じて午睡を支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診ノートや業務日誌にて、個人の薬に関する情報共有し、日々の支援に役立てている。毎回処方箋の説明を見ながら薬をセットするようにし、薬の目的や副作用、用法・用量について理解が深まるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント時に飲酒をして頂いたり、昔行っていた店へ外食に出かけたり、毎日の日課だった散歩を友人と行ったりして楽しく過ごせるよう支援している。お抹茶や習字、作品作りなど趣味の時間の充実にも心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのくつ塚公園へお参りの希望があり支援したり、長年の友人や家族の協力にて毎日の散歩とマクドナルドへの外食支援を行っている。また、生まれ育った一色へご家族様とウナギを食べに出かけてきた。	日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には4階のベランダでお茶をしたり、プランターの花や野菜の水やり、洗濯物や布団干しなどをして外気に触れる機会を大事にしている。入居者一人ひとりの希望にそって、喫茶店や外食、故郷を訪ねるなど外出の機会を多く持てるよう支援をしている。現在では、新型コロナウイルスの影響により年2回の家族との日帰り旅行や南区主催のさわやかウオークなどは中止になっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、ほとんど職員が管理している。個人で現金を所持している方もおり、外出時にご自分で支払いをしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話の希望があれば、番号を押し支援していた。家族や大切な人とのつながりを作れるよう、手紙を一緒に書いたり、写真やプレゼンの取り組みを始めた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じることができるよう、施設内に飾り物をしたり、直近に撮影した利用者様の写真を飾ったりし、心地よく過ごせるよう工夫している。	3階にある居間と食堂はワンフロアーで、風通しが良く明るい共有スペースとなっている。居間には、季節に応じた作品や行事の写真をさりげなく飾って居心地よく過ごせる環境を整えている。入居者はベランダにある四季折々の花を眺めたり、テーブルを囲んでゲームやお茶会などをして楽しんだり、新聞やテレビを見たりしてのんびり過ごしている。現在コロナ禍で居間には空気清浄機やオゾン発生器などを整え、徹底した感染予防に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて横になられたり、気の合う人と近くで話をできる座席を工夫したり、一人ひとりの居場所をリビングにて作れるよう努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具、仏壇、家族の写真などの本人の大切なものを置いて、自宅にできるだけ近い環境を作れるよう本人や家族と協力し、居心地よく過ごせる場作りに努めている。	掃除の行き届いた居室には、扇風機、エアコン、介護用ベットが備え付けられている。入居者は使い慣れた箪笥やテレビ、仏壇など、自宅で使用していたものを持ち込み、歩行状態や好みに合わせた配置で転倒防止などに配慮して安心できる環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や家族の写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせる配慮と自立した生活が送れるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやベッドの位置等の配慮し、自立した生活が送れるよう工夫している。3F4Fという建物の作りのため、階段での移動が歩行不安定になってきた方は、エレベーターを活用したりしている。		